

(社)桐生倶楽部・歩く会 H22年2月例会越生観梅、黒山三滝 & 高麗神社遠足

担当 栗原・村田

《スケジュール》

6:40 桐生倶楽部集合出発

- 9:00~10:00 越生梅林、観梅・散策
- 10:20~11:00 龍穩寺
- 11:15~12:15 黒山三滝ハイキング
- 12:40~14:30 昼食会、「ウェルサンピア・おごせ」
入浴(希望者)
- 15:00~16:00 高麗神社、高麗家住宅、聖天院
- 16:15 鶴ヶ島IC ~ 太田藪塚IC ~
- 18:00 桐生倶楽部・帰着予定



【越生梅林】梅園神社に九州太宰府天満宮を分祀した折、菅原道真公に因んで梅を植えたことが起源。水戸偕楽園・熱海梅園と共に関東三大梅林の一つ（秋間梅林・曾我梅林をカウントする者もある）。約2ヘクタールの園内には、室町時代（約6百年前）に植えられた古木を含め、白加賀、越生野梅、紅梅など約千本の梅の木が植えられている。今年（平成22年）は2月13日～3月13日「梅まつり」が開かれている。昨年（平成21）実績では3/1に満開。

【龍穩寺】伝承によれば平安時代山伏や修験者達により創建。室町時代、六代将軍足利義教が関東管領・上杉持朝に命じて曹洞宗の寺院として伽藍を整えた。その後戦乱によって荒れ果てるが、文明4（1472）年に太田道真・道灌親子によって再興された。慶長17（1612）年徳川幕府から「関三刹（他は大中寺（栃木大平）・総寧寺（千葉市川）」の筆頭を命じられ、十万石の格式で全国の曹洞宗寺院を管掌した。江戸屋敷は南麻布（現在のイラン大使館）に在った。太田道真・道灌ゆかりの寺院として、境内には二人の墓、道灌の銅像、そして江戸城の石垣が奉納されている。



【黒山三滝】男滝（落差10米）、女滝（落差5米）が二段に流れ落ち、少し離れた所に天狗滝（落差20米）の三つの滝。昭和25年日本観光百選・瀑布の部で9位に選ばれた。昭和25年には日本観光百選の「瀑布の部」で第9位に選ばれたことがある。古くから修験者の修行の場と知られ、天狗滝の奥の大平山には、修験者栄円の墓や役小角の像がある。また、越生町津久根出身で江戸吉原遊郭の副名主だった尾張屋三平が、男滝・女滝を男女和合の神と見立てて江戸に紹介し吉原の信仰を集めた。その時三平が建てた道標は現在も黒山三滝入口付近に残っている。滝の手前には明治時代初めに発見された黒山鉱泉があり、田山花袋・野口雨情・佐々木信綱など多くの文人に愛された。

【高麗神社】668年、高句麗は唐・新羅に滅ぼされ、多くの高句麗人が日本へ亡命した。『続日本紀』には霊亀2（716）年、それ迄東国に分散していた高句麗遺民1,799人を、武蔵国に移して高麗（こま）郡を置いたと記されている。703年には高句麗王族とされる高麗若光に朝廷から王（こきし）姓が下賜されている。高麗神社はこの高麗郡の郡司・高麗若光を祭る。神仏習合の時代には高麗家は修験者として別当を勤めていた。また、高麗大宮大明神・大宮大明神・白髭大明神と称されていた社号は、明治以降は高麗神社と称されるようになった。尚、この神社では濱口雄幸・若槻禮次郎・鳩山一郎らが参拝後に総理大臣となったことから「出世明神」と崇められるようになった。現在では大韓民国の駐日大使や各界著名人が参拝しており、掲示された芳名録には芸能人の名も多い。入口には将軍標がある（朝鮮半島の村の入り口などに魔除として置かれ、村の境界の意味を表す。道祖神のようなもの）。境内に隣接する入母屋造・茅葺屋根の「高麗家住宅」は高麗神社の社家・高麗家の住居で江戸時代初期に建てられた。昭和46（1971）年、国の重要文化財に指定された。

